

2021年9月 第14号

「空っぽの器」 友の会



不定期発行ニュースレター

目白がん哲学外来カフェ 5周年に寄せて

忘れないよ

シャチホコ記念cafe 彦田かな子

今年1月、大切な仲間のゆきちゃんが天国へ旅立たれました。彼女は、全国のがん患者さんや医療者、がんに関わる多くの方にメッセージ付きの手作りカードをプレゼントしていました。そこに書かれている言葉のほとんどは、榎野先生の講演会でのお話や本からの言葉です。今までも、これからもずっと、このメッセージと一緒にゆきちゃんをそばに感じながら生きて行けることに感謝しています。



森尚子

2021年8月、おかげさまで5周年を迎えることができました。無我夢中で始まったカフェ。

毎月、ただただ心を込めて「空っぽの器」を用意し続けてきました。参加してくださった方が人を呼び、またその方が人を誘って、参加者からスタッフが生まれて、輪が広がってゆきました。

有り難いことです。

悲しみや苦しみ、怒りの中に居た方が役割・使命を得て、今度は隣の方に寄り添い、常連さんとしてカフェを支えてくださっています。回を重ねていく毎に、目白カフェはたくさんの方によって、底の抜けない「頑丈な空っぽの器」になっていきました。

「継続は力なり」。がん哲学外来の集まりは、不要でも不急でもありません。

どんな状況の中でも万全の準備を整え、来てくださった方が安心して話せる場を、これからも用意してまいります。

無邪気に一生懸命、小さなことに大きな愛を込めて。いままでも、そしてこれからも。

出会い・繋がる・寄り添う

がん哲学外来メディカルカフェIN 世田谷深沢
スタッフ代表月岡邦彦

昨年の六月に開設して先月末に一周年を榎野興夫先生の記念講演と、スタッフの原田亮子さん、参加者の松村史子さんの「カフェに参加して」の感想談の発表に感謝と喜びで一杯でした。開設に背中を押していただいた「目白カフェの森尚子さん」を始め、彦田さん、岡内さんと、数多くの先達の方の共通の言葉「空っぽの器」「頑丈な器」を用意していくことの意味がやっと理解出来てきた一年間です。コロナ禍で、私たちのモットー「ほっこりするカフェ」を会場とWebで提供し、集ってくださる方を大切にしようとスタッフで知恵と工夫で極力対面に近く準備を分担し合い毎月定例開催をしてきました。九州から東北までの全国の人とも知り合い繋がっての「出会い(出逢)・繋がる・寄り添う」経験が大きな喜びと使命の達成です。個性と多様性の集まりの「お節介症候群認定証・スタッフ一同」で二合目を目指して、集う皆さまと歩み続けて行きます。「空っぽで頑丈な器」の「ほっこりした世田谷深沢カフェ」スタッフ全員は、このニュースレターの場を借りての言葉は一つだけ。「いてくれてありがとう」



後援：一般社団法人がん哲学外来